時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月賦休刊
〇時事新報社より直接に郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク
時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社（寄稿に付
壇上廟下を始め各府縣に通信社なるものありて恩より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず殆り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

漢醫復活と黴菌學研究費

漢法家の發案なる醫師開業試驗規則改正の請願は前期の議會に於て採用せられ議事日程に上りたれども會期の餘日なかりし爲め議決に至らずして終りたるが聞く所に據れば爾來漢法家は熱心に奔走して運動に怠らず貴衆兩院の議員中にも贊成者少なからざれば今度の議場には多數を得て兩院を通過するの望なきに非ずなぜ云ふものわれ我輩の信ぜざる所なれども蓋し今日に漢醫復活の說を催ほしたるは偶然に非ずして自から原因する所あるが如し凡を如何なる技術にても一たび其道に入れば自から妙味の存するものにして終身これを忘るゝ能はず漢法家が其法を信ずるの餘り今日の衰運を挽回せんとするは無理ならぬ望にして如何にもして其望を遂せんとする其處に現行の試驗規則は寧ろ完全に失し尋常の志願者は高尚なる試驗の爲めに苦められて志を得ざるもの多きより漢法回復の說ありを幸に之を助けて一種の變則法を設け以て試驗の困難を避けんとするものなきに非ず而して今の議員等が時事に熱心して學事を無頓着に附し匆々之を聞て匆々之を贊成する者ありしより拙みを醫術復古の問題を見るに至りたるみとならん其原因事情は兎も角もとして果して今度の議會に再び復古問題の現はるゝが如きみともあらんには我輩は日本國の恥辱として大に之を爭はんとする者なれども顧みて一方より事の裏面を察すれば議會一般の人々は決して無識の者のみにあらず前回に其請願を容れたるは好事の戲に非ざれば一時の間違ひとして認む可きの跡あるが如し或は多數の中には其實漢法を崇拜して復古を希望するものもあらん又は爲めにする所ありて贊成を表するものもあらんなれども全體に就て云へば決して斯る無知無識のものゝしみに非ざる其證據は一昨年痲邪に於て結核病の治療法を發明したりとの報あるや議會の中より其法を實地に調査する爲め同國に醫士を派遣せしむ可きの議を發して直に之を可決し政府の同意を得て實行したるみとあり新法の發明を調査して日本の醫術に益せんとする精神は即ち文明日進の學理を信ずるの結果にして漢醫復活の說とは到底相容れざるものなれば前後の議論孰れか間違なならざるを得ず我輩は議員諸氏に重きを置て後の議論の間違なるみとを斷言せんとするものなり諸氏の精神果して然りとするときは我輩は更に今回の議會に向て望む所のものなきを得ず抑も近來西洋の醫術は次第に進歩して實物證據の一方に進み就中黴菌學の如きは最も著しきものにして其法いよ〳〵開けていよ〳〵人を驚かし百千年來の醫學も之が爲めに動搖せんとするの有樣なりと云ふ然るに先月中の時事新報に記して世人の知る如く我國の醫學博士北里柴三郎氏は久しく獨逸に留學して彼國の大家古弗先生の門に入り黴菌の病理新論を實地に學んで得る所多きのみならず門下の高足弟子四天王の一人として先生の大業を助け先生も亦北里氏の賴む可きを知りて信用淺からず其新法は今日に至るまで未だ公にせざれども北里一人に限り日本國に之を施すは苦しからずとの約束あるゆへ氏に於ても近日その事に着手する筈なりと云ふ我國に斯る名士を出したるは博士一身の面目のみならず實に日本國の名譽なれば其法の研究實施は之を一私人の業として放任す可きに非ず日本國民は斯道の爲め又國の名譽の爲め國費を投じて其業を助くるの義擧なきを得ず或は政府の當局者も並に見る所ありて其議を提出するみともわらんかなれども假令ひ當局者の提出なきにもせよ議會たるものは自から進んで國費の支出を議決するみを適當なる可し我輩は前年結核病治療法の取調を議決したる例に照らして今回も必ず其邊の發議ある可きを疑はざるものなれども若し萬一にも其議を爲さゞるのみか又もや漢醫復活の問題を採用して之を議場に議するが如きみともあらば前回の間違は有心故造の間違にして滿場の議員は無學無識、共に文明の事を語るに足らざるものとして世間の識者と共に之を責めざるを得ず卿か一言して其注意を俟すものなり

官報

○大藏省告示第五十號
願岡本金庫所屬行橋支金庫ヲ本月十五日京都郡行橋町大字行事ニ移ス
明治二十五年十一月五日　大藏大臣渡邊國武

雜報

○二十七年三月迄の修身教授方　文部省にては修身教科書採定の爲め書肆の競爭實に其極に達したる事を察して遂に撰定期の修身書多く出るを待ち適當の書類を撰定せしめんとて二十七年の三月迄は一切生徒をして修身教科に圖書を採用せしむべからずと各地方官に訓令したる其訓令に對しては種々の攻擊非難ありて現に其中の一說として論じ居るものを聞くに文部省にして修身教授に圖書を用ゆべしとの事を養令せざる以上なれば兎も角もなれども苟も圖書採定の撰を規定しておきながら一箇年餘も依然圖書なきの書類を持續せしむるとは前後撞着の話と云はざるべからず云々と論じ居るものわれども當局者の見込にては決して此の訓令の爲めに情身教授の方針を五里霧中に追ひ込みたるにわらず何となれば今日は既に教育に關する諸師あり之に加ふるに小學教則大綱に於て仔細に情身教授の方針を指定しありて文部省が情身教科書の撰定を行ふにも亦實に此の二者を標準とするものにして此の標準たる、決して二十七年四月以後情身書の採定さるゝ夫迄活用を停止したるにわらず來學年の初（來年四月）より小學教師をして普く此の標準に依り敢て違背するみとなからしむる精神なれば件の訓令は唯生徒に書籍を用ゐしむる其時期を延ばしたるのみにして情身教授の方針は從來より一層統一の緒を得べし云々と當局者中には安心し居るものありといふ

○地價修正派の集會　地價修正派委員は過日の決議に基き爾來各大臣及び貴族院議員を訪問中なりしが尙ほ此際一層活潑なる運動を爲さんとて本日午後一時より委員會を開き協議する筈なり又明日は午前九時より代議士會を開き同派代議士總會の準備に付きて打合をなすよし

○埼玉縣の臨時及通常縣會　埼玉縣下にては知事攻擊の運動をなすもの多く現に知事の美輪請願として其筋に提出したる書類にも四十名の總縣會議員三十七名調印せし位なれば本年の縣會に於ける成行如何、幷常中學校の經費案如何と氣遣ふもの多かりしがいよ〳〵明七日より臨時縣會を召集し次で通常會を開く手筈にて臨時會の初めには尋常中學校の議案を出すべしと云へば臨時會の經過次第にて通常會の諾否を察し得べしといふ

○山形縣會の議場　は二十四年度の決算報告に就て頗ふる議論沸騰したる由なるが中にも警察費の如きは質議の觀點にして八百餘圓の電信料中明かに證書を示し得るものは二十五圓に過ぎず其他機密費なりとの噂ありと云ふ

○長野縣會の知事信任問題　同縣會にては開會の當日に第一着として堀川信一郎氏より同縣知事の信任問題とも稱すべき建議說を提出せしが翌二日も亦同問題に就て討議の末結局知事の出席說明を求むるみとに決し議長より番外に其旨を通知せしも知事は其請求に應ぜざりしを以て又々一場の議論となり更に決議の上議長より書面を以て一昨四日午前九時迄に同知事の出席あらんみとを求むるみとゝなり閉會したるよし

○岐阜縣會常置委員の訴狀　同縣會にては曩に常置委員二名增員の決議を爲して撰任せしに同縣知事より右に關する不當の示達を爲したるを以て該當撰者は上京の上種々の取調をなし鳴山和夫、菊池武夫、星亨の三氏を代官人として同知事を相手取り岐阜地方裁判所に訴狀を提出するため昨日歸縣の途に就きたる由なるが該件は議長敬濟土木費の支出上にも關係を有する主要の問題なりと云ふ

○熊本縣宇土郡の選擧餘聞　同縣同郡長麻村永鳳小林郎氏は國權派にて縣會議會の撰擧に頗ふる奔走盡力する所ありしが何等の行違ひありたるにや反對派の壯士七八名去月二十三日の夜突然入り來りて腕節に及び深傷を負はしめたるより宇土警察分署に捕縛されたるものありて乱闘の上遂に白狀に及びたりと云ふ

○監獄學生入學試驗委員の任命　陸軍省軍務局第一課長陸軍步兵大佐真鍋賢、同經理局第一課長一等監督中村宗則、第一師團監督部長二等監督川俣國傳、經理學校長心得同廣虎一、同校教官三等監督今村和太郎、同監督補雄藤貞司の諸氏は去る二日明治二十五年監獄學生入學試驗委員を命ぜらたれりと

○主計官の出張　大蔵、熊田の兩主計官は御用に付一昨四日新水戸下日光へ出張したりと

○收容軍馬補充兵監　は要塞補充兵教育所并に要塞砲兵第一聯隊（出張中の員一兩日前歸京せり

○所長代理を解く　過般廣島地方裁判所長に轉補したる判事古京し一昨四日より出勤せしに付を解きたりと

○佛國軍艦の入港　佛國東洋艦隊の一艦は去る三日午前十時三十分長崎より

○絹物貿込商組合陳情委員の　改良に關する陳情委員桑浦吉三氏は京して農商務省に出頭し

○主務省より產地の地方廳へ　られんみとを請ひたるよし

○那破蘭嶋物語　一名セントレオンが絕海の孤嶋に四せら息にして其侍醫オメーラ氏の抄譯したるものなり其雄壯なる恩はるれども此書を讀むに

○能辨學會の演說會　本日正館に於て開く能辨學會演說左の如し

一外交上の變遷を論ず
一司法論
一輸入稅存廢に就て
一代言人に就て
一昨夜の月蝕皆既　一昨四
珍らしく月蝕皆既に當りた
全く闇黑と爲り再び光輝の復
人も多かりしに連日の快晴生
暑りを稍び果ては雨にやなら
頃より所斑らに青雲を顯はし
出すに至りたれば星斗燦爛た
けれども之を黑雲密蔽の裡に葬
ひべきにわらざるも雲の途切
盤すべきにわらずと時刻の移
一時八分九秒月體左の方より
れ昨五日午前零時十分月體七
源くなりて蝕延し一分間月を
といふ剖合ひと爲り同く二十
し既きたるが僅かに數一線と
體の食せられし分寃ながら
したるは頗る奇觀なりし情同
　　　